

（3）過去に発生した主な地震（注3）

1904年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M7.0以上の地震が時々発生している。ナスカプレートと南米プレートの境界では、1906年2月1日にM8.5の地震が発生し、死者1,000人の被害が生じた他、コロンビアのトゥマコで5mの津波を観測した。なお、この地震により日本の太平洋沿岸でも津波を観測し、和歌山県串本で48cm（全振幅）の津波を観測している。また、2016年4月17日にもMw7.8（Mwは気象庁による）の地震が発生し、死者660人、負傷者51,376人などの被害が生じた。

沈み込んだナスカプレートの内部では、1922年1月17日にM7.9の地震、1970年8月1日にM8.0の地震、2019年5月26日にMw7.9（Mwは気象庁による）の地震など、M8.0前後となる地震もしばしば発生している。

図3-1 震央分布図

（1904年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～700km、M≥6.0）

2026年8月の地震を赤く表示。

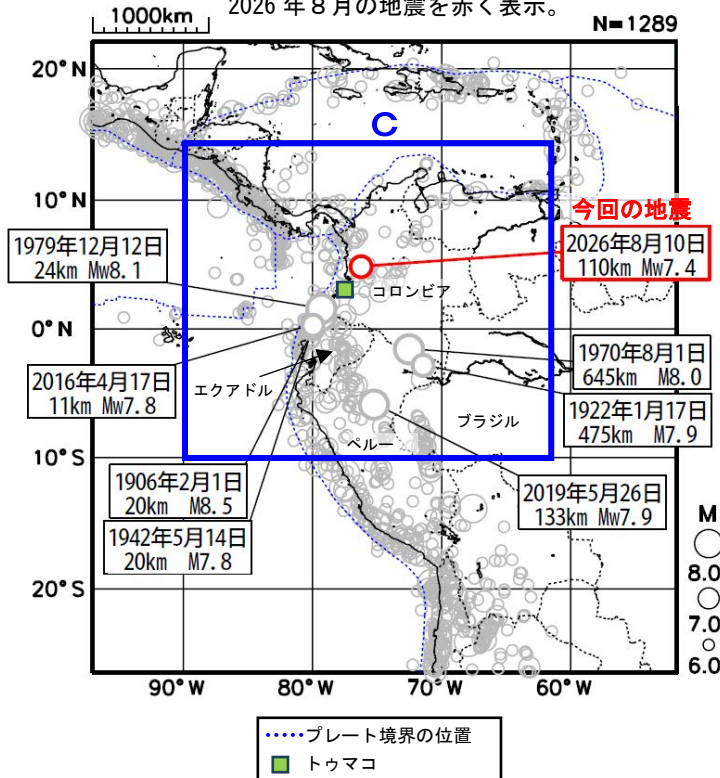
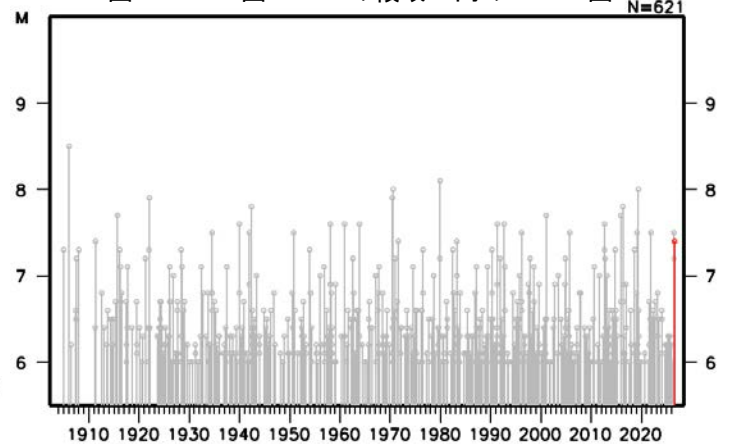


図3-2 図3-1の領域c内のM-T図



（注3）震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12(1904-2021)、2022年以降は米国地質調査所(USGS)による(2026年9月1日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震のMwのうち、2016年4月17日の地震及び2019年5月26日の地震並びに今回の地震は気象庁によるモーメントマグニチュード、それ以外の地震はGlobal CMTによるモーメントマグニチュードである。地震の被害は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置はBird(2003)*1より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.